

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成19年度病虫害発生予報第6号(9月)について

このことについて、病虫害発生予報第6号を発表したので送付します。

ハスモンヨトウの発生に注意！！

大豆の白変葉が見られています。ほ場の発生状況に注意し、適期防除に努めましょう。



若齢幼虫
(集団で食害している様子)



老齢幼虫
(背面の2つの黒紋が特徴)

吸実性カメムシを適期に防除しましょう！！

吸実性カメムシは大豆の子実を加害します。近年は、ミナミアオカメムシが増加傾向にあるので、注意してください。

カメムシは広範囲に移動するので、薬剤防除は広い地域を一斉に行いましょう。



ホソヘリカメムシ



ミナミアオカメムシ



大豆の被害粒

予報第 6 号

向こう 1 か月間の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
普通期水稲	紋枯病 トビイロウンカ 斑点米カメムシ類	並 並 並	やや多 並 並	やや少 並 並
大豆	ハスモンヨトウ 吸蜜性カメムシ類	少 少	並 並	並 並
かんきつ	黒点病 ミカンハダニ	少 並	少 並	少 並
かき	炭そ病 フジコナカイガラムシ	少 並	少 並	少 並
果樹共通	カメムシ類	少		少
茶	炭そ病 もち病 輪斑病 カンザワハダニ チャノホソガ チャノコカクモンハマキ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	やや多 並 少 やや多 少 少 多 やや多	並 並 少 並 少 少 多 やや多	やや少 並 並 やや多 少 少 並 並
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少	少

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は平年と同様に数日の周期で変わりますが、一時ぐずつくでしょう。

向こう 1 か月の気温は平年並または高いでしょう。降水量は平年並、日照時間は多いでしょう。

週別の気温は、1 週目は高く、2 週目は目低く、3 ~ 4 週目は平年並または高いでしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

(福岡管区気象台 19年8月24日発表抜粋)

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（ + ）は発生を助長する要因、（ - ）は発生を抑制する要因、（ ± ）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【普通作物 - 普通期水稻】

1 紋枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(60地点)結果(±)

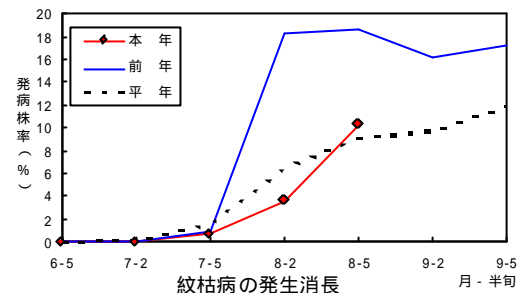
発病株率 10.6% (平年 9.2%、前年 18.6%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア 出穂期以降も、病斑の上位進展が認められる場合は、補正防除を行う。

イ 防除に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散(ドリフト)防止の徹底を図る(以下の病害虫についても同じ)。



2 トビイロウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(60地点)結果(±)

10株当たり払い落とし成幼虫数 1.6頭(平年 1.5頭、前年 0.6頭)

発生ほ場率 71.2% (平年 37.2%、前年 42.4%)

イ 8月中旬以降の平均気温が平年より2~3高く推移し、向こう1か月間の気温も平年並か高く、トビイロウンカの増殖好適条件が続くと予想される(+)

(3) 防除上の注意

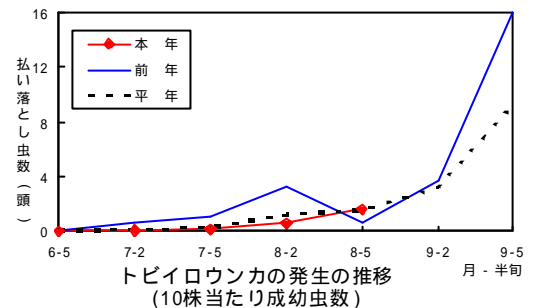
ア トビイロウンカは増殖率が高く、秋には高密度となって坪枯れを起こすため、それぞれのほ場ごとに出来るだけ広い範囲を見て回り、発生状況を必ず確認する。

イ 出穂後は、薬剤が株元へ到達しにくくなるため、水稻の株元に確実に薬剤が届くよう散布する。

ウ 薬剤散布後は、必ず効果を確認する。効果が認められない場合は追加防除を行う。

なお、追加防除を行う際、収穫前日数と使用回数を確認する。

エ 収穫直前で薬剤散布が出来ない場合には、早めに収穫する。



3 斑点米カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(24地点)結果(片振り20回すくい取り成幼虫数)(-)

クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類

本田 0.7頭(平年 0.8頭、前年 0.4頭)

雑草地 8.8頭(平年13.9頭、前年17.1頭)

カスミカメムシ類

本田 0.3頭(平年 0.7頭、前年 0.5頭)

雑草地 10.8頭(平年30.4頭、前年21.6頭)

ミナミアオカメムシ

本田 0.5頭(過去4か年平均 0頭、前年 0頭)

雑草地 0.08頭(過去4か年平均 0頭、前年 0頭)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、カメムシ類の発生好適条件が続くと予想される(+)

(3) 防除上の注意

ア 斑点米は、カメムシ類の密度が極めて低い場合でも発生し、経済的損失が大きいため、防除を徹底する。

イ 防除適期は、穂揃期及びその7～10日後である。

ウ ほ場内で、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシなどの大型の斑点米カメムシ類が散見されたら、防除を行う。

被害許容水準を斑点米混入率0.1%とした場合の要防除水準は、穂揃期に見取り調査してクモヘリカメムシとホソハリカメムシの合計虫数が100株当たり2～4頭。

【普通作物 - 大豆】

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(18地点)結果(たたき落とし調査)(-)

25株当たり幼虫数 7.1頭(平年 17.2頭、前年 6.3頭)

発生ほ場率 44.4%(平年 58.9%、前年 73.7%)

イ 8月1～5半旬のフェロモントラップによる誘殺虫数(±)

筑紫野市 301頭(平年 579頭、前年 441頭)

筑後市 338頭(平年 304頭、前年 369頭)

行橋市 1742頭(平年 1740頭、前年 2163頭)

ウ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(+)

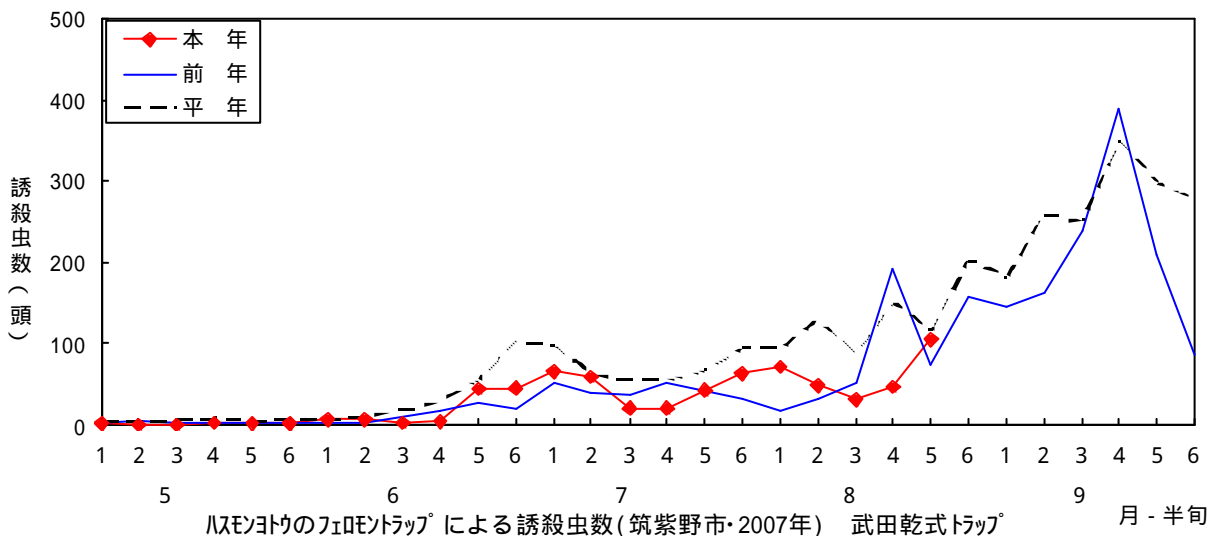
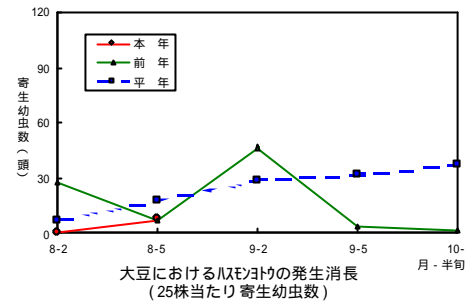
(3) 防除上の注意

ア 分散前の若齢幼虫が群棲している白変葉は直ちに除去する。

イ 薬剤散布は、効果が高い若齢幼虫期に実施する。

ウ 防除適期はフェロモントラップの誘殺ピークから10日目頃となるが、前後する場合がありますため、必ずほ場での発生状況を確認し、白変葉が発生し始めたら早急に防除を行う。

エ 近隣にフェロモントラップが設置されていない場合は、病害虫防除所のホームページにフェロモントラップの誘殺状況(筑紫野市、筑後市、行橋市)を掲載するので、参考にして防除時期を決める。



2 吸実性カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(18地点)結果(たたき落とし調査)(-)

主要3種カメムシ類(アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ)の25株当たり成幼虫数 0頭(平年 0.2頭、前年 0.8頭)

発生ほ場率 0%(平年 10.6%、前年 26.3%)

イ 8月1～8月5半旬の県内5地点の予察灯における誘殺虫数(±)

アオクサカメムシ 23頭(前年 103頭)

ミナミアオカメムシ 49頭(前年 11頭)

ウ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高いと予想される(+)

(3) 防除上の注意

ア 若莢期から子実肥大期の加害が多いので、この時期の防除を徹底する。なお、薬剤は着莢部に十分付着するように散布する。

イ カメムシ類は広範囲に移動するので、薬剤散布は広い地域を一斉に行うと効果が高い。

【普通作：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
	平年比	平年比	前年比
普通期水稻			
穂いもち	少	少	並
コブノメイガ	並	並	並

【果樹】

1 かんきつ黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(15地点)結果(-)

発病果率 1.4%(平年 5.2%、前年 17.5%)

発生ほ場率33.3%(平年47.5%、前年 81.3%)

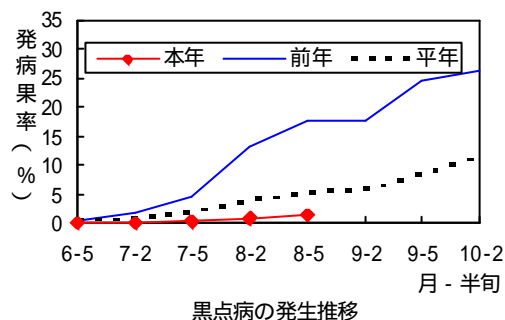
イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア 枯れ枝は感染源となるので除去する。

イ 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mmを防除間隔の目安に降雨の合間をぬって防除を行う。

ウ 極早生種は収穫期に入るので、防除に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、特に薬剤の選定に当たっては、使用時期(収穫前日数)に注意する(以下の病害虫についても同じ)。



2 かんきつのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(15地点)結果(±)

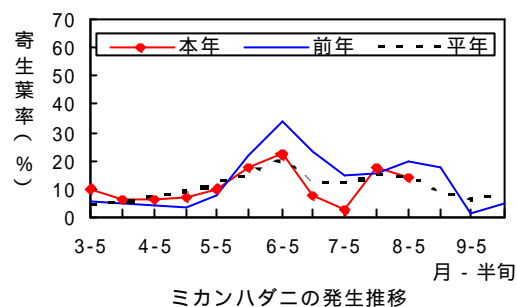
寄生葉率 13.9%(平年14.3%、前年19.8%)

発生ほ場率 73.3%(平年63.7%、前年76.5%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。



3 かき炭そ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(16地点)結果(-)

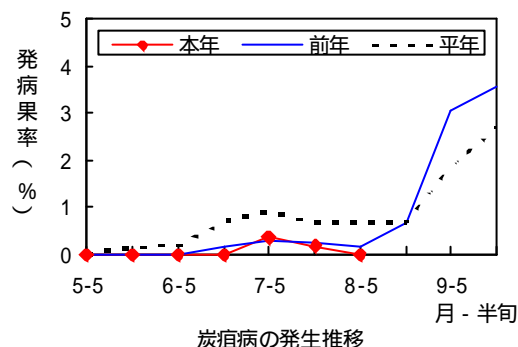
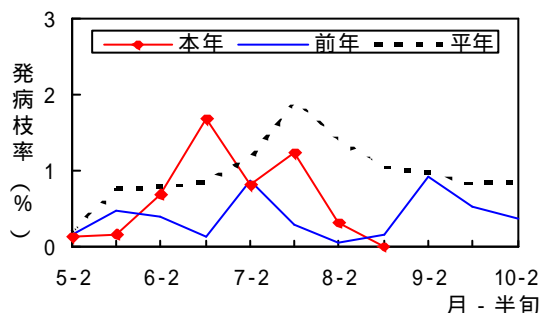
発病枝率 0%(平年 1.0%、前年 0.2%)

発生ほ場率 0%(平年 27.9%、前年 17.6%)

発病果率 0%(平年 0.7%、前年 0.2%)

発生ほ場率 0%(平年 32.8%、前年 17.6%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(±)



(3) 防除上の注意

ア 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので除去する。

イ 降雨により胞子が飛散し感染するので、降雨が数日続いたり台風等の強風雨が予想される場合は、防除を行う。

ウ 樹冠内部の徒長枝に発病しやすいので、樹冠内部にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

エ 早生種は収穫期に入るので、防除に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、特に薬剤の選定に当たっては、使用時期(収穫前日数)に注意する(以下の病害虫についても同じ)。

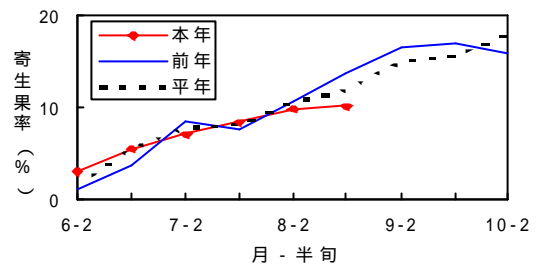
4 かきのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量： 平年・前年並

(2) 予報の根拠

- ア 8月5半旬調査(16地点)結果(±)
寄生果率 10.1%(平年11.8%、前年13.6%)
発生ほ場率87.5%(平年74.9%、前年82.4%)
- イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(+).



フジコナカイガラムシの発生推移

(3) 防除上の注意

防除を行う場合には、ヘタと果実の間などに薬液がかかるよう丁寧に散布する。

5 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量： 前年より少

(2) 予報の根拠

- ア 増殖源であるヒノキ球果の結実量が少から極少であることから、新世代成虫の発生量は少ない。

- イ 8月5半旬ヒノキ球果ビーティング調査(12地点)結果(-)

寄生頭数 5.0頭(前年 14.9頭)

口針鞘数 15.5本(前年 19.1本)

- ウ 8月1半旬から8月5半旬までの予察灯の誘殺虫数は次のとおりである(-)。

(調査地点：筑紫野市)

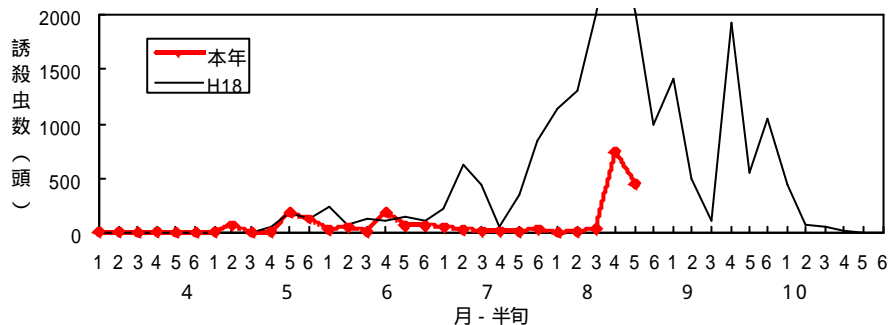
チャバネアオカメムシ 1224頭(前年 9326頭)

ツヤアオカメムシ 390頭(前年 1506頭)

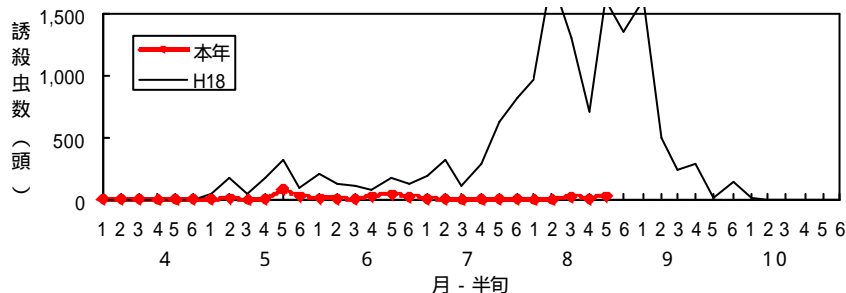
(調査地点：八女郡黒木町)

チャバネアオカメムシ 89頭(前年 6383頭)

ツヤアオカメムシ 29頭(前年 111頭)



チャバネアオカメムシの予察灯による誘殺虫数の推移 (筑紫野市)



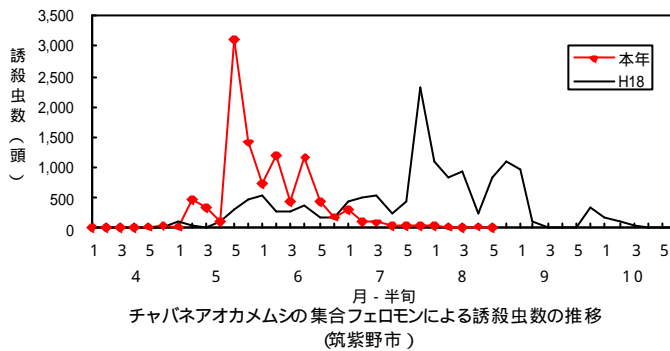
チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺虫数の推移 (黒木町)

エ 8月1半旬から8月5半旬までの集合フェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである(-)。

(調査地点：筑紫野市)

チャバネアオカメムシ 90頭(前年 3881頭)

ツヤアオカメムシ 0頭(前年 4頭)



オ 8月5半旬調査(16地点)結果(-)

かき 被害果率 0.1%(前年 1.4%)

発生ほ場率 6.3%(前年52.9%)

カ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア 新世代成虫の発生量は少ないが、地域により散発的な飛来が予想されるので注意する。

イ 防除を行う場合は、果樹の種類によって使用薬剤や使用時期等が異なるので、「平成19年度果樹病害虫・雑草防除の手引き」を参照する。

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
	平年比	平年比	前年比
かき うどんこ病 ハマキムシ類	少 やや少	やや少 少	やや多 少

【茶】

1 炭そ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(26地点)結果(+)

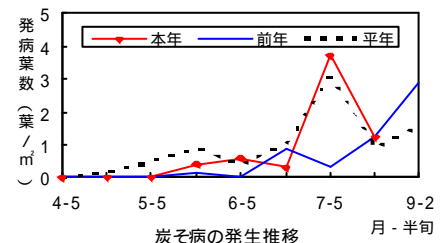
発病葉数 1.2葉(平年 0.9葉、前年 1.2葉)

発生ほ場率30.8%(前年 32.0%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア 整枝後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに薬剤防除を行う。特に最終摘採後の新芽(秋芽)の防除は、翌年の一番茶の品質・収量に大きく影響するため、防除を徹底する。



- イ 雨滴により孢子が飛散するので、降雨が数日続いた場合は、防除をかならず実施する。
- ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 もち病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(26地点)結果(±)

発病葉数 0葉(平年 0.09葉、前年 0葉)

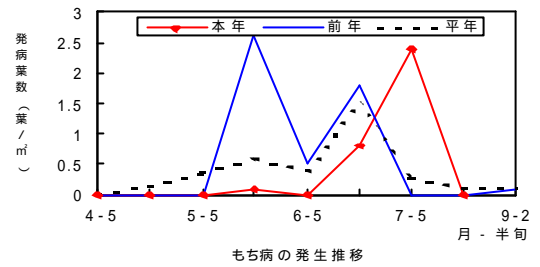
発生ほ場率 0%(前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か

高く、降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

降雨が多いと感染し発病しやすくなるため、発生のおそれのある園では、萌芽から1葉期までに薬剤防除を行う。



3 輪斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(26地点)結果(-)

発病葉数 0.05葉(平年 1.06葉、前年 0葉)

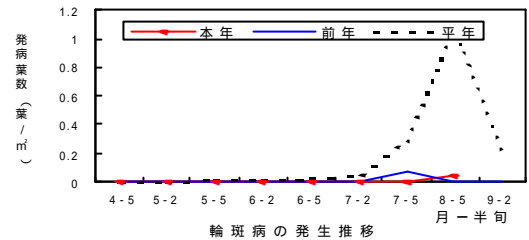
発生ほ場率 3.8%(前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か

高く、降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

整枝などによる葉や茎の傷口から降雨により病原菌が侵入感染するため、夕立ちなどの降雨による感染に注意する。また、台風等の強い風雨の後では、葉や茎の傷口の増加によって感染が急速に拡大する場合がありますので、降雨後速やかに(翌日までに)薬剤防除を実施する。



4 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(26地点)結果(+)

寄生葉率 2.4%(平年 1.6%、前年 3.8%)

50葉当たり虫数5.7頭(平年2.4頭、前年4.9頭)

発生ほ場率 46.2%(前年 52.0%)

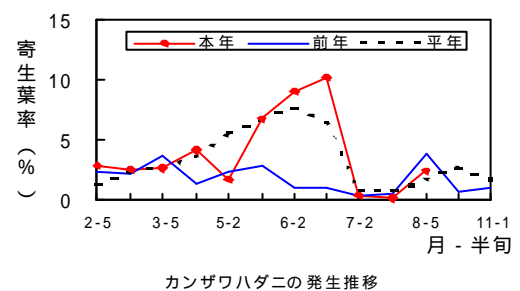
イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か

高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア 発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



5 チャノホソガ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

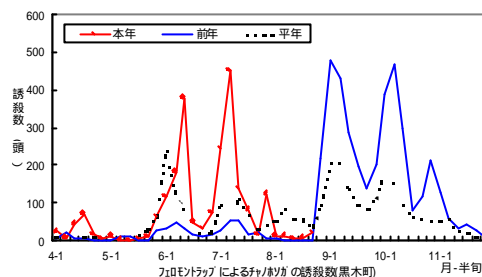
ア 8月5半旬調査(26地点)結果(-)

被害葉数 0.3葉(平年2.1葉、前年1.0葉)

発生ほ場率23.1%(前年36.0%)

イ 8月1半旬から8月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである(-)。

調査地点：黒木町 57頭(平年 281頭、前年 9頭)



ウ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア 第4世代成虫の発蛾最盛期は、9月上旬頃と予想されるので、成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

6 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(26地点)結果(+)

被害葉数 4.2葉(平年 0.7葉、前年 0.4葉)

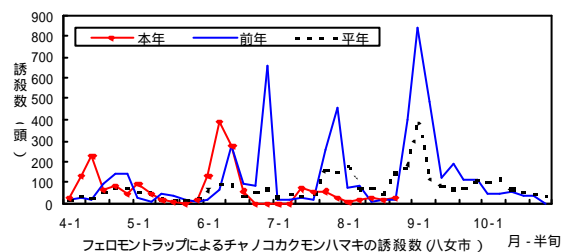
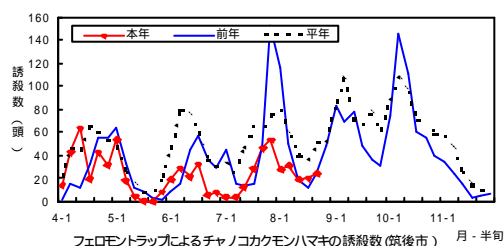
発生ほ場率42.3%(前年 24.0%)

イ 8月1半旬から8月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである(-)。

調査地点：筑後市 123頭(平年 265頭、前年 221頭)

八女市 89頭(平年 505頭、前年 200頭)

ウ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(+)



(3) 防除上の注意

ア 第3世代成虫の発蛾最盛期は、8月末から9月初め頃と予想されるので、成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

7 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(26地点)結果(+)

たたき落とし虫数1.3頭(平年 0.3頭、前年 0.4頭)

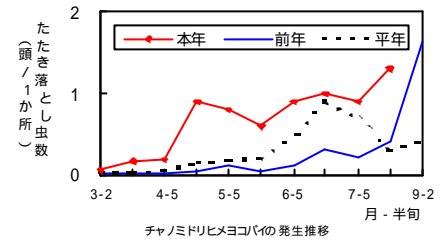
発生ほ場率 65.4%(前年 52.0%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 新芽の萌芽から開葉期を重点に防除する。



8 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(26地点)結果(+)

たたき落とし虫数5.3頭(平年 3.3頭、前年 3.9頭)

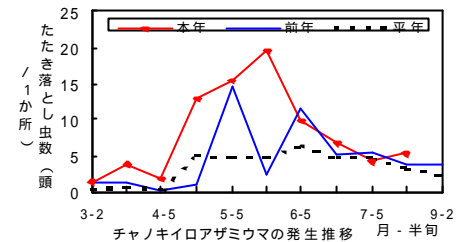
発生ほ場率 88.5%(前年 92.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並(+)

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 新芽の萌芽から開葉期を重点に防除する。



【野菜】

1 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年より少

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査(8地点)結果(-)

寄生株率 20.0%(平年 41.1%、前年 70.0%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は平年並(+)

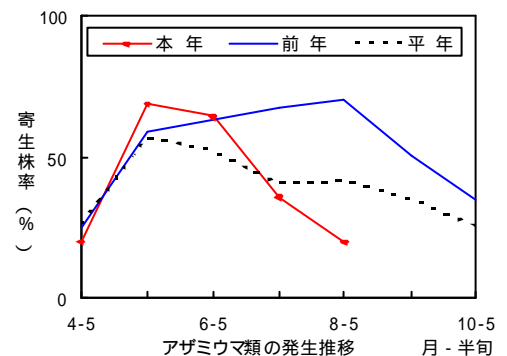
(3) 防除上の注意

ア 成茎の擬葉を手で払い、落下した虫数で発生状

況を確認する。白い紙などで受けると見やすい。成茎で多発生している場合は、若茎にも寄生がみられるようになるので注意する。

イ 多発生後は防除が困難となるので、発生初期の防除を徹底する。

ウ 雑草は発生源になるため、圃場内や周辺の除草を徹底する。



【野菜のその他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
ネギ シロイモジヨトウ	並	やや少	並	防虫ネットを設置すると防除効果が高い。
<p>フェロモントラップによるシロイモジヨトウの誘殺虫数の推移 (朝倉市余名持) 月・半月</p>				
アスパラガス				
斑点病	少	やや少	やや少	早期発見に努め、発生初期から防除する。余分な茎葉は刈る。
ハダニ類	並	並	並	
アブラムシ類	やや少	やや少	並	
鱗翅目	並	並	並	
野菜共通 ハスモンヨトウ	並	並	並	大豆のハスモンヨトウのグラフを参照する。
オオタバコガ	並	並	並	今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照する。
コナジラミ類	やや少	並	並	野外に設置したトマト苗トラップによる捕獲数の推移は左図のとおり。今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照する。コナジラミ類の侵入を防ぐため、0.4mm目合い以下の防虫ネットを設置する。育苗期から定植時の粒剤処理と定期防除を行い、発生を抑制する。
<p>トマト苗トラップでのタバココナジラミ類捕獲頭数の推移 (飯後市)</p>				

農薬の適正使用、飛散防止対策の徹底を！

全ての農薬の残留基準が作物毎に設定され基準値を超えた食品（農産物）は販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、ラベルを良く確認し農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう、これまで以上に注意を払って下さい。

1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数のなどラベルを良く確認し使用基準を遵守する。

動力噴霧器、薬液タンクなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka>
電子メール kfok0301@sp.jpnp.ne.jp